

# 令和8年度 事業計画について

## はじめに

第3期中長期計画のキーワード「ポスト AI時代の知の拠点を見据えて」の下、社会人に必須の基礎的・汎用的な知識・技能はもちろんのこと、変化の流れの早い時代を生き抜く力ー幅広い視野・普遍的教養・学際的知識・向上心・アントレプレナーシップ・レジリエンスーを備えた有為な人材を、地域に、全国に、そして世界に輩出するとともに、地域社会のニーズに即して、教育研究の成果を積極的に還元する大学を目指し、将来を見据えた計画を遂行している。令和8年度は、過年度に引き続き重点施策に資源を配分し、関係者で協議の上、具体的アクションプランを策定・実行する。進捗は自己点検・評価委員会等で確認し、必要に応じて計画・アクションプランを更新する。

## (1) 第3期中長期計画

### 1) 教育と研究

#### ミッション

「広い視野を持って自分のポテンシャルを見出し、それを伸ばすことで、社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成する」

#### 目標

- ①イノベーションを目指した教育・研究の推進
- ②時代のニーズに即した教育・研究の推進
- ③変化の激しいポスト AI時代での対応力を磨く、理文融合のリベラルアーツ教育の展開
- ④学問分野の枠を越えた知識・技能を身につけた人材の育成
- ⑤学生と社会の接点を強化した、社会のニーズに応える教育の実践
- ⑥教学マネジメントの推進による、学生が成長を実感できる教育の強化
- ⑦キャリア形成に活かせる実践的なグローバル教育の体系化

### 2) 地域連携と社会貢献

#### ミッション

「地域コミュニティの中核となり、地域社会の活性化に貢献する」

#### 目標

- ①将来を担う人材の成長のサポート
- ②地域課題の解決に向けた自治体・企業との共創活動の推進
- ③地域の知の拠点として、地域のニーズに対応するリカレント・リスキリング教育の展開

### 3) 大学の組織と環境

#### ミッション

「未来の発展に向け、大学運営基盤を強化する」

#### 目標

- ①社会変革に対応した教育・研究体制の迅速な適応
- ②教育・研究の高度化と技術の進化を踏まえた環境・インフラの改善・充実
- ③活力にあふれるキャンパスの持続的発展を実現できる組織運営体制の強化
- ④将来の成長に向けた戦略的財政基盤の確立

### (2) 教育、学生支援の充実

#### ■学修プログラムについて

学生の将来を見据え、「幅広い知識・スキル」「キャリアの柔軟性」「学際的な視点の醸成」を目的として以下の学修プログラムを開講する。所属学科の専門科目に加え、指定された共通科目や他学科の専門科目を体系的に履修することで、所属学科の専門分野とは別に、将来に向けて習得すべきスキルや、就職を希望する領域に関する知識を学ぶことができる。受講者には、就職の際に活用できる認定基準に基づきオープンバッジを授与する。

#### 領域別学修プログラム

- (1)半導体学修プログラム
- (2)化粧品学修プログラム

#### スキル別学修プログラム

- (1)崇城データサイエンティスト育成プログラム
- (2)アントレプレナーシップ学修プログラム

#### 入試連動型学修プログラム

- (1)次世代女子育成プログラム
- (2)薬剤師地域偏在対策プログラム

#### ■教学マネジメント推進について

令和6年度までワーキンググループとして検討を進めてきた体制を、令和7年度に教学マネジメント委員会として組織化し、自己点検・評価委員会との連携のもと、全学的な教学マネジメントの運用を開始した。

令和8年度も引き続き自己点検・評価委員会と緊密に連携し、教学マネジメントを推進する。また、前年度に更新したポートフォリオシステムの運用を継続するとともに、新たに「ディプロマ・ポリシーの到達度評価」を継続的に開発・導入することで、学生の成長の振り返りの促進と教育改善の実効性向上に取り組む。

### (3) 施設設備・システム等の整備・充実に係る計画

#### ■空港キャンパス北ウイング学生寮新築工事計画

A棟は竣工から50年経過しており、熊本地震において被災し、耐震改修工事を実施した経緯がある。B棟においても30年経過しており、老朽化が進行している。これらの老朽化の状況や共同浴場を利用する旧来の設計思想で建設された建物の現状を踏まえ、学生寮の環境改善を図る目的で、ワンルームマンション仕様の学生寮の新築および既存寮のリノベーションを実施している。令和7年6月末に新築寮が竣工し、順次既存寮から移設後、既存寮改修工事に着手して、既存寮2棟および学生食堂を含む共用棟を改修整備する転がし方式を実施している。令和7年度末には全3棟の供用開始を目指したスケジュールで計画進行したが、工事着工が当初計画より遅延し、学生寮、共用棟の一部の改修が令和7年度末までに完了しないため、令和8年度初頭まで残工事施工が継続する。

なお、熊本県が環境省脱炭素先行地域補助事業に申請した「阿蘇くまもと空港周辺地域RE100産業エリアの創造」が採択されたことを受け、新築学生寮のエネルギー消費機器（エアコン、給湯器等）整備に関する補助金の交付を受けている。既存A棟においても、経済産業省給湯省エネ2025事業の交付決定を受けており、既存B棟の給湯省エネ2026事業の申請を実施予定である。

#### ■半導体人材育成実習室（EE研究所1階）整備計画

本学における半導体人材育成の要となる半導体工学の実験実習を行う実習室を整備する。半導体人材育成は、情報学科、ナノサイエンス学科、機械工学科の3学科が協力して取り組んでおり、講義では特殊講座「半導体工業入門」を起点として、3学科の半導体関連科目を互いに受講できるように学修プログラムを定める整備が進んでいるが、実験実習に関しては、半導体デバイス製作用途のクリーンルーム等が未設備である。半導体関連の産業では、クリーンルームでの作業が基本であり、基板のハンドリングや、薬品や機器の取扱いなどが通常の実験室での作業とは異なるため、学内に専用の実験実習施設を整備することが必須と考えられる。そこで、EE研究所1階の実験室をクリーンルームとしたうえで、露光装置やスパッター成膜装置などの典型的な装置、ドラフターや純水製造装置等の設備を備え、簡単なデバイスを作成することを通して実践的な技術を修得できるよう教育環境の整備を行う。実験実習のスタートを令和9年度後期に予定しているため、令和9年3月に実験室等の整備を行い、順次設備を設置して、令和9年度前期に実験実習の予行実験を実施する計画である。

#### ■各棟耐震診断業務および一部校舎等の設計業務

昭和56年6月以前に竣工した旧耐震基準の校舎・管理棟について、耐震改修促進法に基づいた耐震化完了計画（案）を令和4年度に策定し、公表している。

令和7年度に池田キャンパス体育会館の耐震診断業務を実施した結果、 $I_s$ 値の不適合判定が出たため、令和8年度の耐震改修工事实施および文部科学省私立学校施設整備費補助金への申請を

計画している。

校舎等の耐震化完了は急務となっており、今後も引き続き、旧耐震基準の校舎等において、耐震化完了計画をベースに、状況により耐震工事の実施順序等を考慮しながら、耐震化率 100%達成を目指す。また、特定天井（非構造部材）の耐震化についても早期完了が求められているが、天井照明ランプの更新も喫緊の課題であり、天井の非構造部補強の仕様等を確定し、耐震改修工事完了後、令和 22 年度までを目途に実施を計画している。

#### ■バリアフリー化整備計画

合理的配慮の学内方針に基づき、令和 5 年度情報学部情報学科に入学した車椅子利用学生の対応施策として、令和 7 年度までに F 号館内多目的トイレ 2 箇所の改修設備工事、動線上の段差・勾配解消工事（スロープ設置等）、エレベータ対応工事等を実施した。

令和 7 年度において、J 号館に設置された 3 機のエレベータリニューアルを実施したが、当初計画していた J 号館玄関周辺、K 号館への渡り廊下のスロープ整備および多目的トイレ 1 箇所の整備について、計画および工程に時間を要したことから、令和 8 年度に再度実施を計画している。また、G 号館エレベータリニューアル工事も併せて計画している。

#### ■校舎蛍光灯設備改修整備工事

高圧放電ランプ（水銀灯・HID など）はメーカー製造が終了していることから、令和 5 年度より LED 化を実行している。本学における水銀灯などの高圧放電ランプは、主に街路灯、体育会館、校舎の吹き抜け高天井箇所等に多数採用されており、単年度で一括して交換できる予算規模ではないことから、中期的な年次計画の下に整備を行ってきた。

令和 7 年度までに、屋外、屋内のほとんどの高圧放電ランプの LED 化が完了し、令和 8 年度より校舎内の蛍光灯の LED 化にシフトして 5 年程度を見越した年次計画により整備を実施予定である。蛍光灯の LED 化により、インフラ長寿命化、照度アップ、演色性の向上、省エネ、CO2 削減にも寄与する。

#### ■エアコンおよび全般換気設備整備工事

池田キャンパス中山義崇記念図書館は竣工後 27 年が経過し、吸収式熱源エアコンの老朽化が進行している。また、セントラル空調の非効率性、A 重油を燃焼することによる環境性の悪さも考慮し、熱源および室内機全箇所の更新を計画している。熱源については、電力デマンド増加を抑制するため、電気式ヒートポンプエアコンの採用を回避し、13A ガス導管（中圧管）インフラを延伸してガスヒートポンプエアコン（GHP）を導入予定である。都市ガス供給会社との協議により令和 7 年度末から導管延伸工事に着工している。GHP への更新に当たっては、自己設置、エネルギーサービスプロバイダ（ESP）契約にて比較検討した結果、総合的に判断し、ESP 契約による更新を選択予定である。コストをより抑制するため、機器導入に当たっての公的補助事業（Sii）への申請も併せて計画している。

P号館全般換気設備においては、令和5年度からフロア単位で整備を開始しており、令和8年度はP号館1階更新対象全箇所の換気設備更新を計画している。これにより年次計画による更新は完了する。

#### ■校舎等の屋上防水層改修工事

空港キャンパス北ウイングハンガー棟および共用棟は、竣工後54年が経過しており、耐震改修工事等を経て耐震性能は新耐震基準を充足しているが、外皮の劣化が進行している。令和8年度にハンガー棟低層部全面および共用棟屋上防水工事の実施を計画している。

また、令和7年度にJ号館屋上防水層改修工事を予定していたが、施工計画にあたって事前調査箇対象が拡大したことにより実施時期を変更し、半導体人材育成実習室の改修計画が進行しているEE研究所屋上の全面防水工事を先行実施した。校舎等の屋上防水工事については、中長期的な計画のもと、状況に応じて整備順位を入れ替えるなど、柔軟に対応した整備を進めていく。

#### ■賃貸マンションの屋上防水および外壁補修工事

所有物件となる賃貸マンションは築30年以上が経過しており、経年劣化により外壁・屋根の修繕、防水機能が低下している。放置することで漏水の発生に加え、浸水が躯体へ回り鉄筋腐食を招き、コンクリートやタイルの剥落等、安全性に関わる事象に発展するリスクが高い。令和3年度より室内リノベーションを進め、賃料収入を得る運用段階に入るため、建物価値と入居者の安心を維持し、長期的な安定収益を確保することを目的に、点検結果に基づく計画的な保全工事を実施する。

#### ■ネットワーク環境の整備

- ・無線LANアクセスポイント更新と設定の最適化

無線LAN環境の整備を継続事業として引き続き実施する。令和8年度は旧規格のアクセスポイント約70台および屋外用アクセスポイントの更新を計画している。また、特定の建物・教室において学生から「無線LANに接続できない、接続できても通信が遅い」といった声が上がっているため、設定の見直しをおこない無線LANの通信品質の改善を図る。

- ・空港キャンパス北ウイング再整備

池田キャンパスと空港キャンパス北ウイング間の接続に利用しているサービスが令和8年3月に提供終了となるため接続方式の変更を計画している。池田キャンパスのネットワーク関連作業実施の際に空港キャンパスの訓練に影響が生じることが多い状況であるため、併せて空港キャンパスの学外接続に関する設定見直しを実施する計画である。

- ・本館ネットワークリニューアル

コロナ禍以降のDX推進において職員各自が1台のノートPCを所有することとして以降、ネットワーク共有ドライブを使用するケースが多くなっている。通信量が増大していることから本館ネットワークの再整備が必要な状況である。加えて6階学術講演会室とレセプション室

および4階会議室で開催される会議やイベントへの対応として速度の向上に留まらず各種通信の需要に対応できるネットワーク環境も必要となっている。以上の理由からネットワークスイッチとケーブルのリプレースを実施する。

#### ■教学基幹システムの新機能追加

教学基幹システム「GAKUEN」と学生ポータル「UNIVERSAL PASSPORT」は前年度から継続で追加機能の導入と運用の充実を図る。令和8年度は学生が学内各種手続きをWEB利用により申請可能となる機能を導入する。これによって芸術学部や薬学部、空港キャンパスといったメインキャンパスから離れた学生の利便性向上を図る。その他、就職に関する機能に関しても追加を検討する。

#### ■ネットワークセキュリティ向上に関する取り組み

##### ・メールセキュリティゲートウェイの更新

令和7年度に基幹ネットワークシステムのリプレースを実施したものの、システム選定が遅れたためスパムメール等の制御をおこなうメールセキュリティゲートウェイは継続して利用している。令和7年度末から次期システムを検証中であり、令和8年度夏季に移行を計画している。

##### ・情報セキュリティ対策

本学における情報セキュリティ対策は、インシデント発生時の対応が担当者個人の判断と経験に依存しており、初動対応はできているものの組織的・体系的なCSIRT的対応には至っておらずガバナンス上の課題が顕在化している。また、教職員の情報セキュリティに対する意識や知識にばらつきがあり、スパムメール・フィッシングメール等への対応に課題が残っている。以上の課題を踏まえ、令和8年度は学内CSIRTを設置しインシデント対応手順や報告ルートの明確化を図るとともに全教職員を対象とした情報セキュリティ研修や標的型攻撃メール対応訓練を実施し、大学組織全体のセキュリティ対応力の向上を目指す。

#### ■リースPCのリプレース

事務局・法人局の各部署で使用しているリースPCおよそ50台が令和8年7月末にリース開始から7年を迎える。共用PCとして利用していることから使用年数を考慮するとリプレースが必要となっており機器の更新を実施する。

#### ■中型バスの購入

大学所有の大型バスは購入後34年が経過し、老朽化していることからバスの購入を予定している。同等の大型バスを購入することも検討したが、大学運行の循環バスを利用する学生が増え、大型バスは大学周辺で循環バスとして使用することに適さないため、中型バスを購入する計画としている。

#### (4) 地域連携・産学官連携の促進

##### ■外部資金獲得のための支援

外部資金獲得策の一環として、重点配分予算の研究種目を見直し、大学の戦略的研究力強化を目的とした新規種目を含む8種目の研究助成を実施する。先端性・独創性の重点支援に加え、社会課題対応、学際的価値創出、将来の研究リーダー育成、挑戦的研究奨励を柱とした制度へと再構築する。特にポスト AI 時代を見据えた先端領域や理文融合による新領域の創出を推進し、若手研究者・学生の主体的研究活動を支援することで、研究基盤の持続的強化と多様な人材育成を図る。また、学内の科研費審査員経験者や外部委託による申請書添削支援を継続し、地域共創センター運営委員会や SRAP と連携して、科研費獲得セミナーや受託・共同研究で成果を上げている教員による実践的後援を実施する。これにより科研費や JST・AMED・NEDO 等の競争的・非競争的研究費の獲得者数増を目指す。

令和 8 年度目標：配分額 120,000 千円以上（基盤 B を 3 件、挑戦的（萌芽）を 2 件以上）

##### ■一般社団法人大学コンソーシアム熊本

大学コンソーシアム熊本は、設立から 13 年を経て、高等教育を取り巻く環境や地域社会の構造変化を踏まえ、その使命と機能の再定義が求められている。こうした状況に対応するため、令和 6 年度より第 2 期中期計画が策定され、高等教育および地域の活性化に向けて、加盟機関が果たすべき役割とコンソーシアムの機能強化の方向性が明確化された。

本中期計画は、令和 10 年度までの活動指針として、熊本における高等教育の共同的発展と地域連携の中核を担うための道筋を示すものである。本学は、この計画に基づき、令和 8 年度に実施すべき事業の重点と数値目標を以下のとおり設定する。

事業	具体的な取組項目	数値目標
1) 高等教育機関の教育・研究の充実	① 進学ガイダンスセミナー事業	・模擬授業数 2 講座以上
	② 学生交流推進事業	・学生、留学生、教職員の各種イベントへの参加 2 名以上
	③ FD・SD	・各種研修会への参加 2 名以上
	④ 障がい学生支援	・協議会や勉強会等への参加 1 名以上
2) 高等教育機関と自治体、産業団体との連携	① インターンシップ・プログラム連携事業	・派遣学生を夏季 20 名以上
	② 共同研究・受託研究に関する協議会の開催	・協議会への参加 1 名以上
	③ 産学官交流事業	・交流事業への参加 1 名以上

3) 地域社会の教育・文化の向上と発展、教育環境の向上	① 地域課題解決のための企画事業	・企画事業への参加 1 名以上
	② 熊本の魅力度 UP 事業	・各種事業活動への参加 1 名以上
	③ 男女共同参画推進連携事業	・事業の企画・実施への参加 1 名以上
	④ 公開講座（キャンパスパレア）の開講	・1 講座以上の開設
	⑤ 留学生誘致のための取り組み	・事業の企画・実施への参加 年 3 件
	⑥ グローバル人材育成（外国人留学生、日本人学生）のための取り組み	・学生、留学生の各種イベント への参加 2 名以上

### (5) 学生募集に関する取り組み

#### ■工学研究科生物生命学専攻の設置

社会のニーズに対応した学科編成とするため、生物生命学部では令和 4 年度に既設の応用微生物工学科および応用生命科学科の 2 学科体制から、両学科の教育研究分野を包含する 1 学科体制に改組を行い、生物生命学科を設置した。当該学科を基礎とする大学院工学研究科の応用微生物工学専攻および応用生命科学専攻においても、両専攻を統合する形で改組を予定しており、令和 9 年度開設を目指して、令和 8 年度に文部科学省へ生物生命学専攻の設置届出を行う。

#### ■入学試験問題集（赤本）の制作

受験生への情報提供の充実および大学認知度の向上を目的として、従来の自前制作による「入学試験問題・解答例集」から、教学社発行の「赤本」形式へ切り替える。本学では平成 18 年度以降、大学独自に問題集を制作してきたが、近年の受験生ニーズ、高校現場での赤本活用、書店における認知度向上を踏まえ、教学社との連携による制作が有効である。掲載内容は過去 2 年分の一般公募制推薦選抜および一般選抜前期日程（1 日目・2 日目）とし、問題と解答例を収録する。また、赤本の制作に加えて、すべての試験問題および解答例は大学ホームページでも公開し、受験生がアクセスしやすい環境を整備する。

#### ■Web 出願（インターネット出願）の拡充

受験生の利便性向上と出願手続の効率化を目的として、外国人留学生選抜および大学院入学試験においても Web 出願（インターネット出願）を導入する。現在、この 2 つの入試区分では紙願書のみで受け付けており、受験生の負担、書類管理に伴う事務負担などが課題となっている。令和 8 年度より Web 出願（インターネット出願）を全面的に拡充し、本学が実施するすべての入学試験をオンライン化することで、受験生の利便性向上、出願データの一元管理、窓口業務の効率化が期待される。また、この取り組みにより、令和 9 年度以降に予定する入学手続のオンライン化への移行が円滑となり、大学全体のデジタル化推進にも寄与する。

## ■大学ブランドイメージの向上に関する取り組み

「福岡・宮崎・鹿児島」を学生募集対策の重点エリアとして、高校教員・入試アドバイザーへのヒアリングを行いつつ、新しい素材を使った TVCM 放映などを開始している。令和 7 年度は特に鹿児島県を重点的に広報活動した結果、日経 BP のブランドイメージ調査結果のアンケート数値が大幅に改善した。令和 8 年度は宮崎県を重点エリアと位置付け、各種広報施策を実施し、日経 BP のブランドイメージ調査結果を指標に効果の有無を検証する。

また、令和 7 年度から沖縄県における認知度の向上および志願者・入学者数の増加を図るため、モノレールやバスを活用した広報活動を積極的に展開しており、学生募集施策を重点的に推進していく。

## ■広報誌「岳風 100 号 記念号」に関する取り組み

令和 8 年 7 月に発行する広報誌「岳風」が 100 号となることから記念号と位置付け、内容を充実させた特別版を制作する。親子・兄弟で崇城大学出身者特集や、活躍著しい卒業生の紹介、歴代の誌面紹介とあわせた学園の歴史を振り返るページ等、記念号に相応しい内容を企画している。

## (6) 大学の適切な運営に関する取り組み

### ■研究インテグリティ・研究セキュリティの確保

近年、国際共同研究の増加や研究のオープン化に伴い、研究活動の公正性・透明性を確保し、利益相反や研究リスクを適切に管理することが一層求められている。令和 8 年度は、本学における研究インテグリティおよび研究セキュリティの確保を目的として、基本方針の明確化や規程整備、管理体制の構築を進めるとともに、教職員等への研修や周知・啓発を実施する。具体的には、利益相反申告制度やデータ管理規程の整備、研究活動に必要な情報収集、研究機器の適正な管理体制の構築、リスクマネジメント体制の運用を着実に進め、内部点検や評価を通じて運用の改善を図る。これらの取組により、全学で遵守すべき指針を共有し、信頼性と透明性を備えた研究環境の実現を目指す。

### ■安全保障輸出管理に関する AI チェックシステムの導入について

安全保障輸出管理の適切かつ厳格な実施を目的として、令和 7 年度に AI 技術を活用した安全保障輸出管理支援システムを導入した。システムの運用を令和 8 年度から開始し、これにより、研究パートナーのスクリーニングや訪問研究員のバックグラウンド確認、技術移転の適正評価などを効率的かつ厳格に調査管理することができるようになる。